



低気圧不調なのか、更年期の始まりなのか、おそろくその両方で、頭痛と倦怠感に苦しんだ6月。だるくてやる気が出なくてどうしたものかと思っていたある日、グループラインで持ち上がった日帰り登山に行こうという話。サクサクと日程と行程が決まっていきました。

メンバーは男2人女2人。私は20代の頃に、山雑誌で有名な出版社で編集の仕事をしていました、その時の先輩たちです。

久しぶりに山に登ることが決まって、急にシャッキリしました。1日予定を空けるために、急に仕事もテキパキと。

久しぶりとはいえ、このメンバーでは年に何回か集まっついて、主な活動としては、ビールやらワインやら肉やらをしこたまザックに詰めて山に登り、山頂で料理してそれをつまみに飲む。下山したらまた麓の居酒屋で飲む。という会です。

「たのしかったー」と私の心の声が漏れました。ほかの3人がにっこりしているのが見えました。あんなに登るのはつらかったのに。あんなに倦怠感に悩まされる日々だったのにね。

居酒屋でその日何度目かの乾杯。「50を超えると急に考えるよ」と53歳の先輩の発言。これからの人生の時間を、どう使っていくか。私だって考えますよー、と言ってはみたものの、40代のそれとは絶対的に違うのだと断言されました。

「だから、このつながりはすごく大きいんだよね」とも。

感慨深かったです、その言葉は。ひとつは、次の楽しいことを一緒に計画する仲間がいるということ。飲みながら「次はどこに行こうか、何をしようか」と話し合います。いわゆる「中年の危機」というのかどうかかわりませんが、人生どうに折り返したと実感する中で、近未来のワクワクは明らかに健康的です。

最近はいよって、山に登らず都会の夜の居酒屋からスタートする会が何回か続きまして、これでいいのかと議題に上っていました。

私が最年少で48歳。次いで53、54、57歳。日頃運動していないのは私だけで、ほかの人はまだ山をフィールドに仕事をしていたり、モンブランに上っちゃったりするような山のプロです。着いていけるのだろうか、不安でシャッキリしちゃいますよ。

ちなみに最年長の57歳は岡野さん。POKUPOKUでレシビの連載をされていた時期があるのですが覚えてる読者さんはいらっしゃるか？左の写真はカメラマンである岡野さんが20年以上前に撮った山の取材のポジフィルム。私も写っています。右は今回の写真です。

今回も、私ひとりがひーひーいながら歩き、それを笑われるという山行は無事に終えまして、居酒屋へ移動する電車の中。

もうひとつは、私も「友達」とみなしてもらっているのだ、と今さらながら思ったこと。というのも、一緒に仕事をしていたのは20代の頃で、その頃の5歳先輩とか9歳先輩という差はとても大きいものでした。教えてもらうことばかりで、尊敬する先輩方でした。

それが今となっては、5歳差、9歳差がたいしたことなく感じてしまう（笑）。それでもまだ私が先輩方を「友達」と呼ぶにはおこがましいような…。でも「おともだち」とくらいには呼んでも許されるな、と思うようになりました。



文・写真  
小宮華寿子  
二男一女の母で  
編集者。「ブラジルの  
手しごと」著。  
ジュエリーと世界の手仕事ワーク  
ショップの店「メルカジーニョ」  
(<https://mercadinho.net>)代表。



イラスト・  
デザイン  
寺沼麻美  
切り絵作家、時々  
デザイナー。「ゆ  
らゆらゆるる北欧風手作りモビ  
ール」(ネコパブリッシング)を監修。